



体育理論の教材開発：運動やスポーツは持続可能な社会の実現に貢献できるのか

大谷, 麻子

(Citation)

研究紀要：神戸大学附属中等 論集, 5:49-58

(Issue Date)

2021-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCDOI)

<https://doi.org/10.24546/81012683>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012683>



実践報告

体育理論の教材開発
—運動やスポーツは持続可能な社会の実現に貢献できるのか—

大谷 麻子
OTANI Asako

本実践は「体育理論」の授業実践について提案する。体育理論は必修領域として位置づけられているにもかかわらず、実施率は低く、実践づくりが進行していない現状がある。特に高等学校においてその傾向は顕著である。そこで高等学校入学年次の生徒を対象に「運動やスポーツは持続可能な社会の実現の貢献できるのか」という問いを中核に据えて実施した体育理論の授業について紹介する。

キーワード： 体育理論，持続可能な社会，共生社会，オリンピック・パラリンピック

I はじめに

平成30年に告示された高等学校学習指導要領 保健体育編，体育編(以下 次期高等学校学習指導要領)において，体育理論は現行版に引き続き必修領域として位置づけられている。図1に従前の高等学校学習指導要領と次期高等学校学習指導要領における体育理論の指導事項を示した。改訂では「する・みる・支える」に「知る」を加え，スポーツとの多様な関わり方や，オリンピック・パラリンピックに関する指導を通して，スポーツの意義や価値等に触れることができるように内容が改善された(文部科学省，2018)。

現行版に引き続き重要な一領域として位置づけられているにも関わらず，実施率は低く，実践づくりが進行していない現状が報告され(村瀬他，2017)，特に高等学校においてその傾向は顕著である(中村 他，2017)。村瀬らによると，体育理論の実施にあたり困ったことと，実施しない理由として「時間がとりづらい」「内容が扱いづらい」ことがあげられ，「運動することが重要」

平成21年告示高等学校学習指導要領解説【保健体育編・体育編】科目体育

<p>1. スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴</p> <p>(ア) スポーツの歴史的発展と変容</p> <p>(イ) スポーツの技術、戦術、ルールの変化</p> <p>(ウ) オリンピックムーブメントとドーピング</p> <p>(エ) スポーツの経済的効果とスポーツ産業</p>
<p>2. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方</p> <p>(ア) 運動やスポーツの技術と技能</p> <p>(イ) 運動やスポーツの技能の上達過程</p> <p>(ウ) 運動やスポーツの技能と体力の関係</p> <p>(エ) 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方</p>
<p>3. 豊かなスポーツライフの設計の仕方</p> <p>(ア) 各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方</p> <p>(イ) ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方</p> <p>(ウ) スポーツ振興のための施策と諸条件</p> <p>(エ) スポーツと環境</p>

平成30年告示高等学校学習指導要領解説【保健体育編・体育編】科目体育

<p>1. スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展</p> <p>(ア) スポーツの歴史的発展と多様な変化</p> <p>(イ) 現代のスポーツの意義や価値</p> <p>(ウ) スポーツの経済的効果と高潔さ</p> <p>(エ) スポーツが環境や社会にもたらす影響</p>
<p>2. 運動やスポーツの効果的な学習の仕方</p> <p>(ア) 運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害</p> <p>(イ) スポーツの技術及びその変化</p> <p>(ウ) 運動やスポーツの技能の上達過程</p> <p>(エ) 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方</p>
<p>3. 豊かなスポーツライフの設計の仕方</p> <p>(ア) ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方</p> <p>(イ) ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方</p> <p>(ウ) スポーツ推進のための施策と諸条件</p> <p>(エ) 豊かなスポーツライフが広がる未来の社会</p>

図1. 学習指導要領解説における体育理論の指導事項

「生徒の反応が良くない」といった回答も見受けられたと報告されている。

中学生や高校生の時期に「する、見る、支える、知る」といった生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続していく資質能力を育成していくためには、運動やスポーツの価値や文化的意義等を学ぶ体育理論の学習は不可欠であると考えられる。しかし体育理論の授業実践例は少なく、実際に実施している教員の中でも、内容の取扱い方、評価、方法等に苦慮している現状が浮かびあがっている(佐藤, 2015)。

本実践では「運動やスポーツは持続可能な社会に貢献できるのか」という問いを中核に据えた構成とした。2020年に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピック大会(以下 東京2020大会)に関する様々な取り組みを教材として用いる。東京2020大会のような国際大会は、現代社会において、スポーツは経済的な波及効果があり、持続可能なスポーツの推進には環境や社会にもたらす影響を考慮することがより求められる。この東京2020大会の取り組みを教材として、4年生(高校1年生)を対象に、「1. スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展(イ)現代スポーツの意義と価値(エ)スポーツが環境や社会にもたらす影響」の実践を提案、検証する。

本実践では、夏季休業に個人の探求課題、冬季休業中にグループでの探求課題を課すことにより授業内容のより深い理解を促し、思考力・判断力・表現力を身に着けることを目指した。また中京大学の來田享子先生による講演会を開催し、より生徒の理解が深まることを目指した。

またスポーツの持つ正の側面だけでなく、負の側面にも目を向けて学びを広げることが、生徒にとってこれからの豊かなスポーツライフを実現していく基盤となると考えられる。成果を把握し、課題を検討することはがこれからの体育理論の学

習の充実を目指すうえで有意義であると考えられる。

II 実践

1. 夏季休業課題

1) 概要

夏季休業課題として調べ学習を課した。「スポーツは持続可能な社会の実現に貢献できるか」を共通のものとし、副題を生徒それぞれが興味関心のあるものから考え、設定する。探求の方法は、中学公民の教科書に記載されている「探求の方法」「探求内容」「探求のまとめ(提案)」「参考資料」を基本とした。文字数は指定せず、A3用紙1枚にまとめることとした。

2) 内容

図2は、生徒が取り組んだ持続可能な開発目標(以下 SDGs)の17のゴールを人数別に表したものである。横軸の数字は、SDGsの17のゴールをあらわしている。複数の項目に取り組んだ生徒もいる。

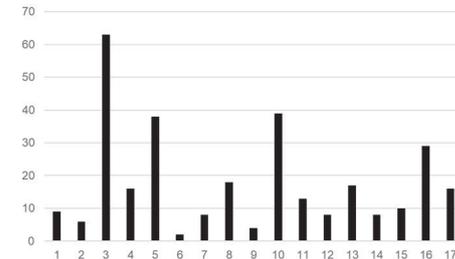


図2 夏季休業課題で取り組んだSDGsの17のゴール

- | |
|-----------------------|
| 1.貧困をなくそう |
| 2.飢餓をゼロに |
| 3.すべての人に健康と福祉を |
| 4.質の高い教育をみんなに |
| 5.ジェンダー平等を実現しよう |
| 6.安全な水とトイレを世界中に |
| 7.エネルギーをみんなに、そしてクリーンに |
| 8.働きがいも経済成長も |
| 9.産業と技術革新の基盤をつくろう |
| 10.人や国の不平等をなくそう |
| 11.住み続けられるまちづくりを |
| 12.つくる責任、つかう責任 |
| 13.気候変動に具体的な対策を |
| 14.海の豊かさを守ろう |
| 15.陸の豊かさを守ろう |
| 16.平和と公正をすべての人に |
| 17.パートナーシップで目標を達成しよう |

図3 SDGsの17のゴール

「3. すべての人に健康と福祉を」に取り組んだ生徒が最も多く、次いで「10. 人や国の不平等をなくそう」「5. ジェンダー平等を実現しよう」に取り組んだ生徒が多く見受けられた。

図4は生徒が夏季休業課題で取り組んだ題名の一部を抜粋した。

- ・スラム街の子供たちの貧困をなくすためには
- ・経済格差はスポーツにどのような影響を及ぼしているのか
- ・つくる責任つかう責任
- ・ダンスでつながるSDGs
- ・eスポーツによる健康と福祉
- ・ラジオ体操が日本人にもたらした健康増進
- ・マラソンを通してすべての人々に健康と福祉を
- ・オリンピックとジェンダーの平等
- ・高校野球におけるジェンダー不平等
- ・サッカーによる分裂したコミュニティの統合
- ・Bリーグと地域の活性化
- ・環境にやさしいスポーツ用品の普及を目指して
- ・ラジオ体操で高齢者に住みやすいまちづくりを目指す
- ・オリンピックは住み続けられるまちをつくれるか
- ・甲子園球場の環境への取り組みから考える
- ・パラリンピックから平和と公正をすべての人に
- ・平和的かつ公正な国際大会(オリンピック)のあり方
- ・経済の成長と国際的なパートナーシップに向けて

図4 夏季休業課題で取り組んだ題名

生徒の多くは、興味のある分野についてインターネットで検索し、そこで得た情報をもとに調べ学習を進めた。SDGsの目標「3. すべての人に健康と福祉を」をテーマに選ぶ生徒が多かったのは、スポーツは「健康」との関連が高いと考えたからであろうことが容易に推察される。

中学3年生時に学習した体育理論「文化としてのスポーツの意義」では「文化としてのスポーツが世界中に広まっていることによって、現代生活の中で重要な役割を果たしていることなどの現代スポーツの価値」について理解を深めている。中でも「国際的なスポーツ大会などが果たす役割」では、スポーツが国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること、「人々を結び付けるスポーツの文化的な働き」においてはスポーツには民族や国、人種や性、障害の有無、年齢や地域、風土といった違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることについて学習している(文部科学省, 2017)。その学習内容と関連付けて「5. ジェンダー平等を

実現しよう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「16. 平和と公正をすべての人に」の項目に取り組んだ生徒が多かったことが推察される。

3) 成果と課題

生徒は作成した夏季休業課題を相互に評価を行った。以下は振り返りに書かれていた内容を抜粋したものである。

「最初に現在の日本でゴミが増えているという問題点を挙げたうえで、スポーツを通してゴミを減らすことができるということを調べていて、普段私たちが取り組んでいるスポーツがゴミ問題解決につながるということが分かり、興味深かった。」

「今年の大きな行事であった東京オリンピック・パラリンピックに着目していて興味を持った。そして、自分が知らなかった策がたくさんあり、私たちができることの『減らない知恵を使う』も、大切だと思った。オリンピック・パラリンピックが実際に行われる前に学べて良かったことが詰まっていた。」

「パラリンピックで身体障害者用のルールが使用されているが、テニスを例にすると車いすテニスだけではなく立位テニスという競技性の高いルールがあるということを知った。パラリンピックでルールがあるということは差別化できていると思いがちになる盲点について良いと思った。」

「スポーツに関する不平等について、メジャーであるだろうドーピングや性別問題についてはもちろん、私は言われるまで思いつかなかったメジャースポーツとマイナースポーツの格差についても論じられていて、新しい視点でとても面白かった。」

生徒は相互に評価する活動を通して、運動やスポーツの意義や価値や環境に及ぼす影響などについて新たな課題を発見し、興味関心を広げることができたようであった。

2. 体育理論の授業

1) 概要

高等学校学習指導要領解説保健体育編体育編では「現代スポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、国際親善や世界平和に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していること」「スポー

ツを行う際は、スポーツが環境や社会にもたらす影響を考慮し、多様性への理解や持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められること」を学習することが明記されている（文部科学省，2018）。

そこで本実践は、現時点では延期が決定されているが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下 東京2020組織委員会）が示した持続可能な社会及び共生社会の実現に向けた取り組みを教材として展開する。

東京2020組織委員会は、持続可能な大会の準備・運営に向けて、取り組むべき5つの主要テーマを定めており、この5つの主要テーマの取り組みは、SDGsと広く関連している。また「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」としてあらゆる差別・ハラスメントを受けることなく世界中から訪れる多様な人々がお互いの違いを認め合いながら、ともに楽しめる大会の実現を目指しており、PR動画も作成されている（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）。これら一連の東京2020大会の取り組みを理解することを通して、持続可能なスポーツの発展のための課題を発見し、その解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えることを思考力・判断力・表現力を高めることを目指した。

さらに本授業の後半では、東京2020大会の持続可能な社会の実現に向けた取り組みの中から「共生」の視点に焦点を絞っていく。生徒にとって実生活と関連付けて身近な問題を発見し、問題解決に向けて考えを深めていくことで、次に実施される講演会がより深い学びにつながるように授業を構成した。

2) 本単元の目標

- ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解することができるようにする〈知識〉
- ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする〈思考力・判断力・

表現力〉

- ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組むことができるようにする〈学びに向かう力、人間性〉

3) 内容

本授業では3枚のスライドを教材として使用した。このスライドは東京2020組織委員会が「東京2020×持続可能性」を示すために作成したものである。

導入として図5のスライドを提示し（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）、「スポーツは世界と未来をどのように変えることができるのでしょうか」と発問を行い、生徒の興味関心を高めることからスタートした。

次に図6のスライドを示した。このスラ



図5 スライド1

イドでは「Be better, together / より良い未来へ、ともに進もう。」をコンセプトとし、持続可能な社会の実現に向け、課題解決のモデルを国内外に発信したものである。地球及び人間の未来を見据え、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」に貢献するとともに、将来の大会や国内外に広く継承されるよう取り組んでいることを示している（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）。

生徒は、東京2020大会の持続可能な社会に向けての取り組みを学ぶことを通して、スポーツは「する」だけでなく「見る、支える、知る」など多様な関わりの中で、社会と強く結びついてお

り、スポーツを行う際には、提供者、使用者の双方が持続可能な社会の実現や共生社会の実現を視野に入れた取り組みが求められることについても理解を深めていった。

次に「東京2020大会の持続可能性には『皆さんとともにできること』がいくつもあります」と



図6 スライド2

記載された図7のスライドを示した（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）。そのスライドに示されている『皆さんとともにできること』とは何かという発問を行った。生徒はグループで話し合い、2020年はプラスチックごみの削減のため、買い物の際にナイロン袋が有料化になったこともあり、資源の再利用や環境に関することに着目する傾向があった。

そこで東京2020イメージ映像「TOKYO 2020 PEOPLE」動画（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会）を視聴した。この動画に出てくる「Know Differences, Show Differences. ちがいを知り、ちがいを示す。」のアクションワードについて「この違いとは何か」を生徒はグループで話し合った。スポーツは多様な人々がお互いに影響し合い、お互いを理解し、多様性を尊重する社会に大きな役割を持

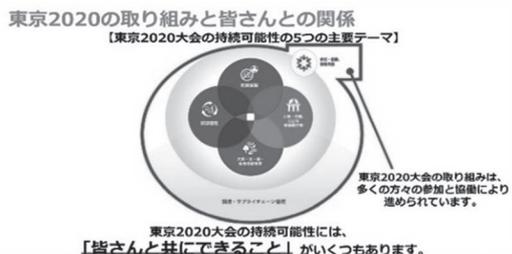


図7 スライド3

っており、この考え方を東京2020大会はレガシーとして根付かせていくことを目指していることを生徒に示した。さらに本授業では共生社会の実現に向けて、特にSDGsの目標である「5 ジェンダー平等を実現しよう」について身近にある問題を考えてみよう」と提示した。

生徒は、自分の身近な体育の授業や部活動、自らが取り組んでいるスポーツ活動や好きなスポーツなど、気になる課題についてグループで意見を出し合った。図8は生徒がグループで出し合った問題点である。

<p>【学校生活に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育の授業が男女別で行われている 男女別で整理する 新体力テストでは女子にAが多い 持久走で走るコースが違う 体育館シューズの色が男子が青で女子が赤 陸上部は男女混合なのに、テニス部・バスケ部・バレー部、卓球部は男女別
<p>【競技に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女子野球をテレビであまり見ない 男女混合競技が少ない マネージャーは女子が多い 〇〇協会の会長は男性が多い気がする スポーツ選手の収入は女性のほうが低所得 男女で分けてるけど、人種でも筋肉のつき方が違うのでは 性別によっては、環境が整っておらず取り組みにくい（先入観）競技がある スポーツをしたくないと思わせる（したいと思う人に対する）社会・環境の不備 性別判定検査の人権侵害
<p>【性的マイノリティの人々に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> LGBTQの人たちは、更衣室で着替えがしにくい 男女に分けることの違和感 偏見が多く、自分からは言いにくい 体が男で心が女だと、女として出場したいというはずのいのか 規定を満たしていても競技にあまり出てほしくない、負けたくない（男性から女性へ性転換した選手がもし、自分の競技に出ることになったら） ウサイン・ボルトの心が女性で、女性の部門で出場したら、ムチャクチャになってしまう
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同性愛を法で禁止する国がオリンピックの開催地になってよいのか 女子が強いと怖がられる 体格差などによって同じスポーツができない

先入観（どうせ、女性負けるなど）
 女性は容姿が重要視される
 強い女性を面白いコンテンツとして扱う
 スポーツで得点・勝敗を付けるから差が生まれる
 スポーツによって男女格差が広がる
 平等と公正が違う
 区別と差別の違いは考えるべき

図8 スポーツに関する共生社会の実現に向けての問題点

3) 成果と課題

東京2020大会は、現時点では開催が延期とされている(2021.2.11)。導入段階でのグループでの話し合いの様子を観察すると、延期が決まっている東京2020大会は、実施の可否が不透明なこともあり、少し遠い存在として感じているようであった。

生徒は本授業を通して2013年に東京でオリンピック・パラリンピック大会の開催が決定してから、2020年まで大会実施に向けて様々な取り組みがなされていることについて理解を深めていった。特に共生社会への貢献が、ポスト2020のレガシーのひとつに掲げられていることを知り、形あるものだけでなく、多様な考え方がこれからの社会に受け継いでいくべきことであり、その社会を担う自分たちが今できることは何かについて考えを深めていった。まずは身近な課題に気づき、その課題を解決していくことが私たちにできることであると考えるようになった。

3. 講演会

1) 概要

持続可能な開発目標の一つである「ジェンダー平等」についてスポーツの側面からの理解を深める。自分たちの日常生活に即した問題であることを知り、課題を発見する。

2) 内容

日時：2020年12月10日(木)

場所：神戸大学附属中等教育学校第1アリーナ
 4年生各教室

講師：中京大学 来田享子先生

テーマ：スポーツとジェンダー

本講演会は中京大学と本校の第1アリーナ及び各教室にて、TV会議システムを用いてオンラインで実施した。

本講演会は「スポーツを題材にして考える性別

とは何であるか」「スポーツではジェンダー平等は達成されているか」「社会が変わればスポーツも変わる、スポーツが変われば社会も変わる」の講義が行われた後に2つのテーマについて議論を行った。

1つ目の議論のテーマは「体育の授業について考えよう。フランスの体育の授業では、男女一緒にラグビーをします。体格、パワーには個人差があるけれども、一緒に行きます。Aなぜ、そうするのだろうB日本の体育の授業では、どうすれば実現できるだろう」である。以下は生徒の回答である。

【Aの問いに対する回答】

- ・お互いのことを理解するため
- ・どうしても出てくる男女の差を自分たちで工夫することを考えるため
- ・性的マイノリティの人のため
- ・技術の向上よりも仲間意識・個人の尊重
- ・共存することであえて「違い」を明確にし、その気づきを互いの思いやりや差別の撲滅につなげる

【Bの問いに対する回答】

- ・ルールの変更 ・安全面に配慮する
- ・役割分担の固定概念をなくす
- ・目的を共有する ・幼少期からの教育改革
- ・お互いを思いやる心を大切にする。
- ・できないじゃないじゃなくてやってみる

2つ目の議論のテーマは「LGBTQの人の割合は、7~10%だという統計があります。クラスや学校に存在するLGBTQの生徒たちが自分らしく一緒に過ごすために、A体育や部活動で変えなければならないことを探そうBそれを実現するための具体的な計画を立てよう」である。ABの問いに対してまとめて回答しているクラスが多かったため、以下にまとめて記載する。

- ・男女というくくりで分けない
- ・能力で分ける
- ・男子と女子ではなく、一人一人が選ぶ自由を

- ・運動種目を選択制にする
- ・体育館シューズの色は好きな色を選べる。自分に合った靴を選ぶ

4) 成果と課題

生徒の感想をもとに、成果と課題について考察する。

「いつも自分が何も引っかかりを感じずに行動していることが、当たり前にするのが難しい人もいるということ認識し直さなければいけないとお話を聞いて感じました。体育館シューズのことや制服のことなど、現実的にジェンダーの平等が可能なことは変えていきたい。」

「性に対して日本はどうしても偏見があるので私達が大人になった時はもう少し偏見が無くなり、LGBTQの方々が生きやすい世界になったらいいと思います。」

「スポーツはみんなで楽しむもので、性別や力の差で区別して行うものではないと思いました。体育の授業をはじめとするスポーツにおける格差、その現在の状況を変えるには、人々の意識が変わらなければ前進しない気がします。だから、このような講演会などのきっかけがあることで、スポーツやジェンダー問題により関心を持つことができたように感じました。」

ジェンダーに関する問題は、共生社会の実現に向けて重要な課題である。この課題解決の一端をスポーツが担っていることは本実践においてあらためて感じることであった。次期高等学校学習指導要領解説には「体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、原則として男女共習で学習を行うことが求められる」と明記されている(文部科学省, 2018)。まずは学校生活における体育の授業で直面している種々の問題を教員が実践していくことが重要であると考えられる。

4. 冬季休業課題

1) 概要

夏季休業課題、体育理論の授業および講演会を通してスポーツは、「する、見る、支える、知る」など様々ななかかわりの中で持続可能な社会の実現や共生社会の実現を視野にした取り組みが求められることについて理解を深めてきた。冬季休業課題は、今まで習得した知識を活用して、自己や社会についてスポーツの意義や課題を発見し、持続可能な発展につながるより良い解決に向けて、提案を行うこととした。この課題は4から5人のグループで協働し、ICT機器を活用してスライドを作成した。

2) 内容

冬季休業課題で取り組んだSDGs 17の目標は図9の通りである。複数の目標達成に取り組んだグループもあるため、複数回答可としている。

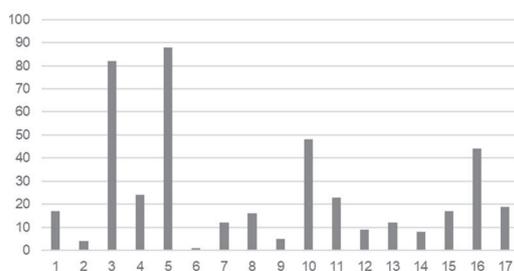


図9 冬季休業課題で取り組んだSDGsの17のゴール

図10は冬季休業課題で取り組んだ題名を抜粋したものである。

- ・貧困に苦しむ人も参加できるスポーツ大会
- ・スポーツで不平等をなくすために私たちにできること～フェアトレードを通じて～
- ・体育道具が健康に対して起こす問題と解決案
- ・高齢者が運動することの重要性
- ・長期入院児がスポーツに触れやすくするためには
- ・地域のスポーツ活動において、どのような活動を行えば人々はより健康になることができるのか
- ・ニュースポーツは学校でのスポーツ課題是正に貢献できるか
- ・義務教育課程におけるパラリンピック競技の導入の提案～SDGsの観点に着目して～
- ・全国高等学校野球選手権大会におけるジェンダー平等はどうすれば実現できるのか
- ・持続可能な体育の授業の実現に向けて～LGBTQの人々に配慮した保体の授業とは何か～
- ・部活やクラブチームにおいて指導者やチームメイトがLGBTQの人にできることは何か
- ・ジェンダー平等のための新競技の提案オリンピックと再生可能エネルギー

- ・障がい者スポーツ（義足スポーツ）の格差をなくすためには
- ・神戸マラソンとSDGs～神戸を代表する大会として～
- ・地域スポーツを活かした住みやすいまちづくりの実現に向けて
- ・スポーツイベントにおける食品ロス持続可能なスポーツイベントの実現に向けて
- ・環境に配慮した快適な部活動の実現に向けて
- ・小学校の運動会と環境問題について
- ・オリンピックとパラリンピックの格差を減らそう
- ・今後の体育祭はどうあるべきか？～誰もが楽しめる体育祭を目指して～

図10 冬季休業課題で取り組んだ題名

冬季休業課題で取り組んだ題名は「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」に取り組んだ生徒が最も多かった。また「10. 人や国の不平等をなくそう」「16. 平和と公正をすべての人に」に取り組む生徒が多かった。これは夏季休業課題と同様の傾向であった。

内容を詳しく見ていくと、体育の授業に関することや体育祭、部活動など学校生活に関する提案や問題提起を行うグループが多く見受けられた。

また地域運動会の開催など、自分たちが住む地域における広い年齢層の人々を対象に健康を高める方策について提案する班も見受けられた。さらにコロナウィルス感染症と関連付けて持続可能な社会にスポーツがどのように貢献できるか、東京2020大会の実施の可否を検討するグループもあった。

3) 成果と課題

生徒の感想をもとに、成果と課題について考察する。

「社会に存在する様々な問題とその解決にどのようにスポーツを活かすことができるか色々な視点で考えられていておもしろかった。」

「それぞれのスポーツとSDGsについて色々な視点から考察できて面白く、興味深いものがあった。体育の授業など多くの場面で私たちが直面している身近なことについて改めて考えるきっかけになった。」

「体育祭や学校の授業など取り組みやすい身近なことから行っていくべきだと思った。問題といっ

ても一つではなく解決方法には表裏があると思った。」

「SDGsとスポーツの関わりは深く、身近によくあると感じた。コロナウィルスの流行によってSDGsを見直す機会となっていると思ったので、今考えることが様々なことの解決につながると思った。」

夏季休業課題の際は個人で行う調べ学習であった。この冬季休業課題は、教員側の発問が「自分たちからできる提案を考えてみよう」であり、グループでスライドを制作するという形式である。生徒はスライドを製作する過程で、自分たちが発見した課題の解決に向けて議論を深めていった。また他のグループの発表を聞くことで、新たな問題に気付くことや、発見することができた。そしてスポーツが環境や社会に及ぼす影響について、今まで習得した知識を基に、身近な問題の発見とその解決に向けて自分たちにできることを共有していった。

III まとめ

本実践では、4年生（高校1年生）を対象に、「スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展」の実践を提案した。

本実践の構成は「スポーツが持続可能な社会に貢献できるのか」という問いに対して個人で調べ学習を行い、運動やスポーツとSDGsの関係について興味を高めた。続けて体育理論の授業、講演会においてスポーツと持続可能な社会や共生社会の実現に向けての取り組みについて理解を深めた。まとめとして得た知識や今まで思考を深めてきたことをもとにグループで協働してスライドを作成した。すべての実践を振り返った生徒の記述の中に以下のようなコメントがあった。

「スポーツにはまだまだ様々な問題があり、解決するために自分にもできることがたくさんあるとわかった。」

「SDGsとスポーツについて深く考える機会が今までなかったので、これを機に少し違う視点からスポーツに関わってみたいと思った。」

「SDGsは当初思っていたよりもスポーツと密接に関わっていて、スポーツは大切だと思った。」

以上の生徒の記述に代表されるように、多くの生徒は運動やスポーツを「する」ことだけでなく、運動やスポーツとの社会の関わりを「知る」ことが、生涯にわたっての豊かなスポーツライフにつながったのではないかと考えられる。

体育理論の授業では、東京2020大会の取り組みを教材として授業を展開した。東京2020大会は現時点では延期となり、2021年開催に向けて活発な議論が行われ、様々な報道がなされている。生徒はそれらの報道等に対して興味関心を抱き、今後の動向に注視していた。実施の可否もさることながら、実施に向けての様々な取り組みや課題について考えることは、スポーツの価値を考える機会となったのではないだろうか。

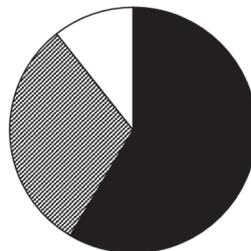
IV 今後の展望

次期高等学校学習指導要領解説では「現代のスポーツを持続可能な大切な文化として捉え、育てていくためには、現代及び将来において、一人一人のより良いかかわり方が重要であることについて、スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から自己の関わり方を考え深めていく必要がある。」と示されている(文部科学省 2018)。

しかし、体育理論の授業は「雨降り保健」と称される中学校の保健の授業と同様に、他の運動領域が雨天の際に急遽、実施されることがある。中には年間を通して実施されなかったり、実施されたとしても6時間の授業時間が確保されていない現状がある(村瀬 他, 2017)(中村 他 2017)。本校でも生徒に体育理論の授業前の生徒の反応は決して良いとは言えなかった。「体育の授業といえば、身体を動かすもの」という意識があり、授業に向かう姿勢が前向きとは言えない生徒も見受けられる。

本実践終了後に「体育理論の授業は必要か」と質問した。図11に示すように「必要である」55名「どちらともいえない」29名「必要でない」10名であった。「必要である」とした生徒55名のうち「内容が興味深い」とした生徒が30名と最も多かった。

「必要でない」とした生徒は、「週2時間の体育なので体を動かしたい」「内容が難しい」という回答であった。



■必要である ▨どちらともいえない □必要ではない
図11 体育理論の授業は必要であると思うか

本実践は4年生を対象とした「スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展」の取り組みについて検証した。次年度以降は「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」、「豊かなスポーツのライフの設計の仕方」に取り組むこととなる。中学校での学習を踏まえ、高等学校での取り組みがこれからの豊かなスポーツライフにつながるようにさらに実践研究を進めていかなければならない。

また、今年度はコロナ感染症拡大に伴う影響を受けざるを得なかった。本実践を進行していく中でも、感染状況は刻々と変化していき、様々な体育の授業やスポーツ活動が制限されていった。しかし感染拡大による影響は、運動やスポーツの価値や文化的意義を改めて考え直す機会となった。冬季休業課題で「コロナ禍における持続可能な子どものスポーツの在り方」と題してまとめたグループは「今こそ『スポーツとは何か』を見つめ直すとともに、当たり前が当たり前じゃなくなったものどうやって付き合っていくべきか、考えるきっかけになればいい」と締めくくられた。この言葉にあるように今、生徒とともに運動やスポーツの価値を考えることは、生涯にわたり、豊かなスポーツライフを主体的に実践するためにも不可欠であると考えられる。

文献

佐藤豊 2015. 体育科教育学研究 31(1), 72, 日本体育科教育学会
中村平・笹生心太 2017. 高等学校における体育理

- 論授業の実態に関する調査報告：女子体育大生と一般女子大生との比較『東京女子体育大学女子体育研究所所報』11, 45-47
- 村瀬浩二・流川謙語・三世拓也 2017. 体育理論の実施状況と実施内容に関する考察『和歌山大学教育学部紀要教育科学』67, 1-5
- 文部科学省 2018. 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 体育編
- 文部科学省 2017. 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 2019『東京2020×持続可能性』
<https://gtimg.tokyo2020.org/image/upload/production/xnfwjwetfcuvybjkcjfs.pdf>
(2020.12.15 閲覧)
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 2019『ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)』<https://tokyo2020.org/ja/games/diversity-inclusion/>
(2020.12.15 閲覧)